

**製品名: 神経化-2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14591**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NEURL2
別名	NEURL2; C20orf163; Neuralized-like protein 2
遺伝子 ID	140825.0
SwissProt ID	Q9BR09
免疫原	抗血清はヒト NEURL2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 99-148

**背景**

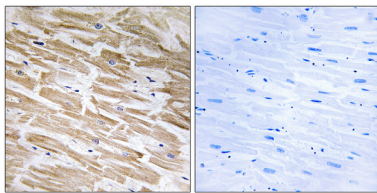
この遺伝子は、筋原線維の組織化の制御に関与するタンパク質をコードしています。このタンパク質は、横紋筋の E3 ユビキチンリガー複合体のアダプター成分である可能性が高く、筋形成においてユビキチンを介した  $\beta$ -カテニンの分解を制御します。この遺伝

子の選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年6月]、ドメイン：SOCS ドメインは TCEB1 および TCEB2 との相互作用を媒介し、NHR ドメインはユビキチン化基質結合に関与している可能性があります。機能：筋線維の分化および成熟過程において重要な役割を果たします。タンパク質のユビキチン化を媒介する、SCF 様 ECS (Elongin BC-CUL2/5-SOCS-box タンパク質) E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼ複合体の基質認識成分であると考えられます。基質およびユビキチン結合酵素の認識と配置を介して触媒作用に寄与すると考えられる。筋形成期には、筋鞘に存在する CTNNB1/ $\beta$ -カテニンの特異的プールのユビキチン化と分解を制御する。経路：タンパク質修飾；タンパク質ユビキチン化。類似性：NHR (神経化相同反復) ドメインを1つ含む。類似性：SOCS ボックスドメインを1つ含む。サブユニット：TCEB2/エロンギン B、TCEB1/エロンギン C、CUL5、RBX1、および NEURL2 からなる ECS(NEURL2) E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼ複合体の構成要素と考えられる。CTNNB1 と相互作用する。組織特異性：骨格筋および心筋に特異的に発現する。

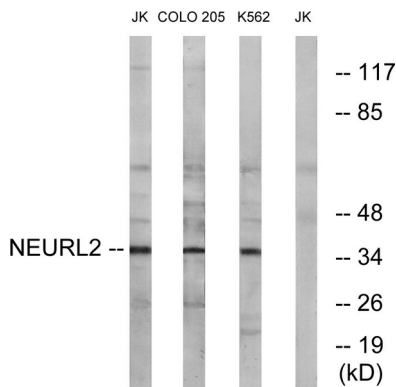
## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達；ユビキチンおよびユビキチン様修飾因子；E3 ユビキチンリガーゼ

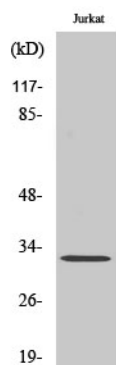
## 画像データ



NEURL2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



NEURL2 抗体を用いた Jurkat 細胞、COLO 細胞、K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Neutralized-2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析